

まちの話 題



あなたの周りの身近な出来事や話題をお知らせください。
連絡先 市まちづくり推進室 ☎43・8113



異文化交流で英語にもチャレンジ

上西郷小学校でルーマニア交流事業を実施



▲英語の質問文と絵を描いたお手製の画用紙を持ちながら英語で質問する児童たち

市は、東京2020オリンピック事前キャンプ地決定をきっかけに、ルーマニアとさまざまな市民交流を実施しています。12月7日と8日には、上西郷小学校でルーマニア関係者とのインターネットを活用した交流を実施しました。

教室のテレビに登場したのは、ルーマニア出身で日本在住の富永フロレンティナさん。ルーマニアには日本と同じように四季がある一方、さまざまな文化の違いがあり、具体例を交えて説明。富永さんが「日本ではあいさつのとき、お辞儀をするけれど、ルーマニアでは握手をしたり頬にキスをしたりする。皆さん、昼休みに友達にルーマニアのあいさつをしては駄目ですよ」と話すと、教室は大盛り上がり。児童から「ルーマニアで有名な場所は」などと英語で質問すると、富永さんも英語で「ブラン」「ドラキュラ」「スシ」など、単語が聞き取りやすいように答え「皆さん英語がとっても上手」と絶賛していました。

子ども食堂を知り同志と出会う

子育て支援の始め方講座を開催



▲現場で意見を聞くことが大切と説く長迫さん

「何か手伝いたい」「自分の経験が生かせたら」といった思いを持つ人に向けた「子育て支援の始め方講座（全3回）」の第1回を12月19日に開催しました。約40人が参加し、子ども食堂ネットワーク北九州の長迫和宏さんからの事例紹介、長迫さんを交えての対話を経て、講座の最後に参加者一人一人が「私がやってみたいこと」を整理しました。新たな支援が誕生することを目指し、今後も参加者同士の対話を進めていきます。

病気になるのは悪いこと？

人権講演会を開催



▲災害被災地でも心のケアに携わってきた森光さん

毎年、人権週間に合わせて開催している人権講演会を12月5日に市中央公民館で開催しました。講師には日本人の臨床心理士として初めて赤字の海外支援事業に派遣された、国際人道支援における心理社会的支援の第一人者、森光玲雄さんを招きました。講演では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって引き起こされている差別や社会の分断について、専門家としての経験や実際に起こっている事例などを紹介されました。

若手農業者が子どもたちの成長を願って

J Aむなかた青壮年部福津支部の皆さんがジャガイモを寄贈



▲収穫作業後、教育長にジャガイモを寄贈するJAむなかた青壮年部福津支部の皆さん

毎年11月に開催している「JAむなかた農業まつり」が新型コロナウイルス感染症の影響で中止となり、市教育委員会は、例年このイベントで使用しているジャガイモの寄贈を受けました。

1個1個が大きな、このジャガイモの品種名は「デジマ」。普段から、カリフラワーやブロッコリーといった冬野菜

菜づくり教室などの食育活動を実施しているJAむなかた青壮年部福津支部の皆さんが育て、収穫した総量約300kgを寄贈いただきました。

寄贈されたジャガイモは、産直市場などでは流通しないもので、全て市内小・中学校の給食でシチューやカレー、肉じゃがなどの料理で子どもたちに振る舞われました。

思いを込めたクリスマスプレゼント

みなつき公園にブランコ寄贈



▲新しいブランコで楽しそうに遊ぶ親子

日蔭野の住宅街にある「みなつき公園」に宗像市の西段隆美さんからブランコが寄贈されました。12月25日にお披露目会が開催され、当日参加できなかった西段さんは手紙で「ブランコを通して子どもたちの輪が育まれるよう願っている」と、ブランコに込めた思いを伝えていました。集まった親子は、早速楽しそうにブランコで遊んでいました。

スポーツで福津が盛り上がるように

株式会社オールビーズと包括連携協定を締結



▲協定書を掲げる橋本社長(左)と原崎市長

市は、株式会社オールビーズと12月4日に包括連携協定を締結。今回の協定では、スポーツをする子どもの増加と体力の向上、スポーツ実施率の向上、障がいのある人のスポーツへの参加などを連携協力していくことを目的としています。橋本治朗社長は「福津市の地域活性化や健康づくりに貢献していきたい」と抱負を語っていました。